



2007年7月13日

各位

会社名 フジテック株式会社
代表者名 代表取締役社長 内山高一
コード番号 6406
上場取引所 東証・大証第一部
問合せ先 常務執行役員 財務本部長
北川由雄
(TEL 0749-30-7111)

エレベーター部材の強度不足について

今般、取引業者*1より納品の鋼材に当社指定の「一般構造用圧延鋼板“SS400材”」と異なる鋼材「熱間圧延鋼板“SPHC材”」が混在し、エレベーター、エスカレーターの一部部位に“SS400材”より強度の低い“SPHC材”を使用していたことが判明致しました。

指定と異なる鋼材“SPHC材”が納品された期間*2に製造された全商品(エレベーター12,727台、エスカレーター634台)に対して、機器が規定の強度*3が確保できているかの検証を行った結果、エレベーター560台において補強対策が必要な部位のあることが判明致しました。

該当エレベーターに対しまして、早急に補強のための改修工事を実施させていただきます。

エスカレーターに関しましては、補強対策が必要となる対象商品はございませんでした。

規定の強度を確保できているエレベーターに関しましては、通常通り運転いただけます。

*1-JFE 商事建材販売株式会社(大阪府大阪市)

*2-2002年9月～2007年6月

*3-平成12年建設省告示第1414、1418号

このような事態が発生致しましたことを、深くお詫び申し上げます。

1. 安全への影響に関して

①一般構造用圧延鋼板“SS400材”は、強度部材として「かご外枠」や「巻上機支持台」等に広く使用しています。一方、熱間圧延鋼板“SPHC材”は「ドア開閉装置フレーム」や「かご床補強材」等に使用しています。“SPHC材”で保証される引張強度は、“SS400材”の約70%の強度であり、機種、および使用部位によっては法規に定められた強度が確保できない場合があります。

今回、“SPHC 材”を使用しているため強度面で懸念されるエレベーターの部位は、クロスヘッド、プランク、レールバックキング、レールブラケット、ヒッチチャンネル(添付資料ご参照)であります。

②現在のところ、“SPHC 材”を使用していたことによる事故や異常の発生はありません。

2. 該当エレベーターの改修工事に関して

①規定の強度が確保できていないエレベーターにつきましては、本年 9 月末までに該当部位の補強*4、あるいは“SS400材”に交換する改修工事を実施致します。

*4- 該当部位に補助材を溶接します。

②改修工事までの間の該当エレベーターの使用に関しましては、積載量(定員)を少なく設定しての運転等の対応を検討しております。

3. 今回の事態に至った経緯

①2007年6月28日、取引業者から、納品の鋼材が当社指定の“SS400材”ではなく、“SPHC 材”を納品していたとの報告を受け、今回の事態が判明致しました。

“SS400材”として納品された保管鋼材を、当社品質管理部(6月29日)と外部試験機関(7月3日)にて、抜き取りサンプル検査を行った結果、“SPHC 材”であることが判明しました。

②当社では“SS400材”を指定して発注していましたが、なぜ、指定と異なる“SPHC 材”が納品されていたのかについて、現在、社内、および取引業者から情報を収集し、調査しております。

4. 再発防止に関して

エレベーターは公共性の高い乗り物であり、メーカーとして、多くの人々が安心してご利用いただける商品を提供しなければなりません。そのような使命を持ちながら、このような事態が発生致しましたことは、誠に遺憾でなりません。

お客様、並びにご利用者の皆様に、今回の件で多大なご心配、ご迷惑をお掛け致しますことを心よりお詫び申し上げます。

今回の該当エレベーターの早急なる補強対策の施工と、今後、このような事態を起さぬよう、外部専門家等のご指導を得て、再発防止に向けた社内体制の強化に取り組んでまいり所存でありますので、何とぞ、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

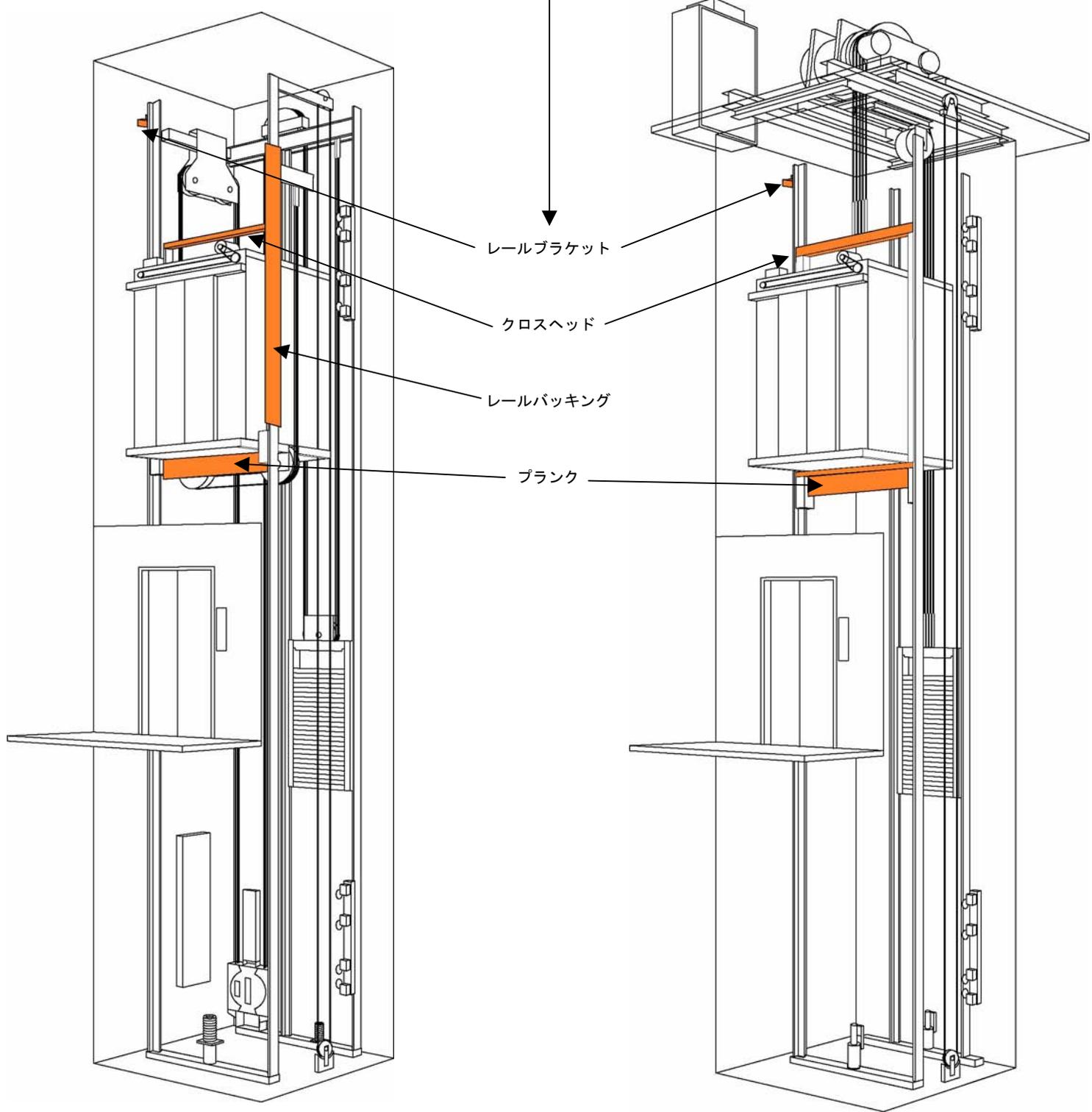
5. 当期業績に与える影響

当期業績(平成20年3月期)に与える影響については、今後わかり次第発表いたします。

以上

添付資料

強度不足が存在する部位



機械室なしタイプ

機械室ありタイプ